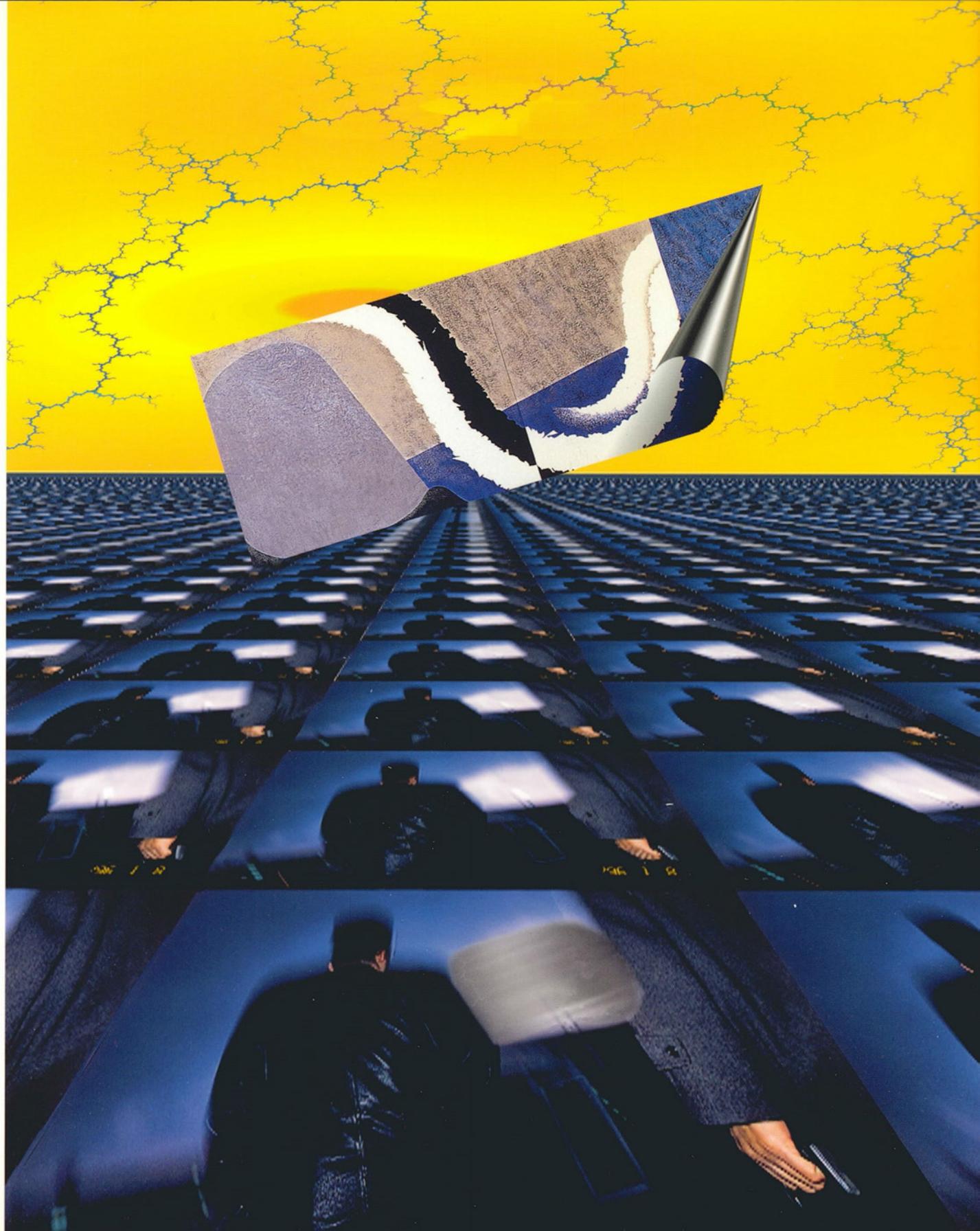


第34回
神奈川県美術展

1998



第34回 神奈川県美術展

1期展／平面立体 平成10年9月8日(火)～20日(日)

2期展／工芸、書、写真 平成10年9月22日(火)～10月4日(日)

会場：神奈川県民ホール ギャラリー

主 催／神奈川県民ホール[(財)神奈川芸術文化財団]

神奈川県

神奈川県美術展委員会

(厚木巡回展のみ)

厚木市

厚木市教育委員会

厚木市文化会館事業協会

(座間巡回展のみ)

(財)座間市スポーツ文化振興財団

厚木巡回展／平成10年10月7日(水)～18日(日)

会場：厚木市文化会館展示室

座間巡回展／平成10年11月26日(木)～12月6日(日)

会場：ハーモニーホール座間ギャラリー

1期展

平面立体

受賞作品目録

《平面立体》

大 賞	笹 井 弘	横浜市	立体	「動植物」
準 大 賞	谷 川 悅 子	横浜市	平面	「大地の鼓動」
準 大 賞	三 沢 厚 彦	藤沢市	立体	「コロイドトンプ」(ヒトウマ)
特 選	片 岡 操	横浜市	立体	「TIME CAPSULE 1998 一風紋一」
特 選	塚 本 悅 雄	横浜市	立体	「第3の夢」
特 選	菅 沼 稔	相模原市	平面	「Paraphrase·74」
特 選	池 田 美弥子	茅ヶ崎市	平面	「海辺」
県立近代美術館賞	長谷川 単	川崎市	平面	「道すがら・夏」
美術奨学会賞	阿 部 佳 明	二宮町	立体	「不可触領域」
はまぎん財団賞	藤 井 浩一朗	八王子市	平面	「未来地」

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。
※はまぎん財団賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的としてはまぎん産業文化振興財団から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される賞です。
※市町名は現住所です。

入選作品目録

《平面》

今井李々子	「無題Ⅰ」	渡辺 幸子	「休日」
高山洋一郎	「おりがみを折る」	大籠 弘子	「作品Ⅰ」
桜井 武人	「風化の詩98F」	岩田 泰子	「夢幻」
田鍋 愛希	「ガランの漂流」	山田 裕子	「空の梯子Ⅱ」
山下真美子	「無限の蓄積」	久保 恵子	「風の詩Ⅲ」
石渡 洋子	「赤い風景Ⅰ」	臼井恵之輔	「Future 98-6」
石村 実	「風と海の帳Ⅱ」	佐藤 陽香	「ほおずりⅠ」
浜田 澄子	「黒のゆらぎ」	藤崎 淳子	「乾いた音を聞くⅠ」
西本 正憲	「Horizon-Vertical No. 8」	川田 祐子	「現相—Green—blood」
伊藤 彰規	「トスカの海へⅠ」	金子 徹	「STABAT MATER」
土田 愛遊	「静止する」	萩原 淑美	「浮遊する物たち」
酒井 陽子	「あやとりをする女」	武田 律子	「〈存在〉作品3」
伊東 玲子	「宙の在り処」	芝崎 峯子	「北の国から」
関 迪子	「コンポジションⅠ」	大矢 雅章	「X歴極上上吉」
井上 英里	「時間の採集」	山田 勝広	「Silent Hymn」
瀬尾きみ子	「時間・位置—9807-K」	土屋 雅敬	「あとかた—萌生・8」
佐藤 靖子	「気持Ⅰ」	渡辺 勇	「メモリーⅢ」
井手 菜穂	「imagine—かえるところ—」	加藤ひろみ	「他人の街」
赤木 明実	「記憶の化石〈鳥〉」	青山 美子	「游」
永井 桃子	「URASHIMA-2」	戸田 重喜	「1人のいる空間」
廣瀬 美帆	「あの場所」	大工 公司	「BOCTOK-25」
藤井 信孝	「受胎告知」	高石久仁子	「沼」
小川 了子	「その刹那の宙へ」	横山 博志	「ろくでなしの詩」
松澤 五男	「その日」	石田 俊哉	「キカイⅠ」
谷地森 真理子	「遊」	清水 美奈子	「トレジャー」
樋口 薫	「泉」	能島 千晴	「Thinking」
沢田 滋野	「風化祭Ⅰ」	広野 正	「化石から〈8-3〉」
山内 若菜	「瞑想」	丸山 あつし	「1998-023」

鈴木 ちさ	「あめが降る」	竹山 晶	「時の監視人」
佐藤 裕美子	「地の譜 I」	佐藤 潔	「現れ出づるもの」
平田 清隆	「無題 <98④06>」	生駒 道代	「空ろ木」
大野 今日子	「ある眺め」	坪井 隆行	「ヒヨピヨ」
中山 智介	「光の出口」	早川 和更	「鱗芽 1」
山本 重隆	「RURAL DISTRICTS」	鈴木 朋子	「森の入口」
高浦 とみ子	「遠ざかるもの」	永田 武亮	「Vague 98-4」
澤岡 泰子	「模索する宇宙」	荒武 智広	「潤い」
右近 多恵子	「M色に鎮めよ 98-2」	丸田 秀三	「アルカロス Alkaloss」
藤沢 徳子	「Chronicle II」	近藤 宏治	「空間の言葉」
安田 文夫	「LIVE IN SHONAN」	宮崎 文子	「ゆったり通勤電車」
井伊 泰子	「朴訥 No.3」	久世 和寿	「土地 X」
いとう あきこ	「作品 D ² 」		
堀岡 正子	「樹の譜 I」		
大塚 とみ子	「カオス表現 II」		
亀山 治代	「個人の時間」		
市村 順子	「月光」		
藤井 清子	「宇宙胎生 001」		
角田 たけ子	「主婦日記 昭和七年」		
神山 一美	「夜の夢／朝の夢」		
加藤 敏夫	「0の起源」		
小松 謙一	「青いみすべ」		
石井 誠	「LIFE 2」		
伊藤 貴祥	「水の記憶 98-Sunset」		
目黒 敏子	「生態 I」		
岸上 嘉世子	「'98の山 II」		
根本 雅行	「Orange」		
福西 康全	「ぬくもり」		

《立体》

- 石田 真利 「かって居た場所」
辻 真由美 「right left」
千田 肇 「さびしいのは君だけだ」
横山 飛鳥 「Tension -内包力-」
松原 雅俊 「3つのプリコラージュ」
星 卷 「メヌエット」
高須賀昌志 「揺れるかたち」
青木カツヨ 「平等主義」
相澤 久徳 「源より・風」
小川 徹也 「育ちI」
飯島 浩二 「時代の終わりにただ犬は尾を振る」
生越麻紀子 「女」
郡田 政之 「誘惑」
諸熊 仁志 「LIFE RING」
小林 秀幹 「嵐の後に」

審査経過

《平面立体》

部門が平面立体なので、応募作の全体像は比較的安定しているように思われるかもしれない。が、実際にはこの部門ほどジャンルの解体が進んでいる分野はないのではないだろうか。そう思われるほど、多種多様な作品が並んでいる。日本画、洋画、抽象画、コラージュ、彫刻、オブジェ、インスタレーション、そのいずれにも該当しないもの……こうなってくると、作品を評価する以前に、評価そのものがいかにして可能か、という問題に直面せざるをえなくなる。通常なら、応募してくる側とそれを受け止める側とのあいだに、ある一定の価値判断なり技術なりのルールが共有されていて、それにもとづいて作品の選別が行われるというのが審査のあり方だろう。けれども、たとえば、日本画として優れているものとインスタレーションとして優れているものがあるとして、そのいずれをより優れていると考えるのか、といったことが頻繁に起こってしまうのである。こうなってくると、個々の作品の評価を位置付ける座標に加えて、その座標そのものの位置付けをしなければならなくなってしまう。だからここでは、そのような競争としての完成度や、個別のジャンル間の相関関係など考えていても、いっこうに拉致があかないのであって、審査の基準は、むしろい

ささか乱暴ではあっても、共通の視点を設定して、そこから判断してゆくほかない。わたしの場合、その基準として、いまある世界に対してアクチュアルであるかどうか、ということを挙げさせていただいた。つまり、わたしたちが生き、暮らしているこの社会、状況、技術と接点を持ち、しかも、その作品を通じなければ見えてこなかったはずの構造、形式、ないしはイメージや感情を、そのひとりの仕方でつかみ出しているか、ということである。

このような評価は主観的になりがちだという批判を受けるかもしれない。けれども、評価の基準を単純にして、反対にその基準を構成する視点をよりオープンにするのと、評価の基準は多様だが、その基準を構成する要素はクローズトであるのとでは、どちらがより好ましいのだろうか。わたしは、今日の美術作品に対する評価は、美学美術史、技術批評はいうまでもなく、社会学、政治経済、哲学、精神分析、サブカルチャー、宗教学、文学、そして科学といった多様な領域のクロスポイントとして考えられてよいと思う。なにより肝心なのは、いまある世界に対して、新しい視点、技術、美意識、そして勇気、といったものを切り開いていけるかどうか、である。

今回大賞を獲得された笹井弘さんの

「動植物」は、エッシャーの永久機関を思わせるが、ネコジャラシの穂を使った毛虫や作品の処理が無気味で、動物と植物と玩具と機械からなる混合体が、カフカ的なユーモアさえ発しながら、奇妙な社会批評性を持っている。準大賞の谷川悦子さんの「大地の鼓動」は、一見すると超現実的なイメージを描いているように見えるが、その描写は現実を把えており、力強くそしてクールである。準大賞の三沢厚彦さんの「コロイドトンプ(ヒトウマ)」も、力強い造形とゴミの集積がミスマッチに陥らないコミュニケーションを見せて いる。また個人的には、谷川单さんの「道すがら・夏」に、希望とも諦念ともつかない未知の感情をくすぐられた。

榎木 野衣

審査するということは、審査する側が試されることもある。それはどうということか。たとえば、今回の出品作全体を見ると総じて平面より立体のほうがおもしろい。立体の分野ではそれぞれの人の意図が多岐にわたって変化がある。少なくとも表面的にはそう映る。材質もさまざままで、作品の外見も多彩である。正統的な造形上の追求があり、一方では遊びもある。「彫刻」的な志向もあり、物の在り様にどう働きかけていくかの思考もある。そういういろいろな方向が、見る側を楽しませる。判断の基準がそれについて多様に動かされていく。それがおもしろさの原因となる。

平面のほうは、かと言って別段おもしろくないわけではない。もちろんそこにもさまざまな試みがあり、それぞれの狙いのうちに密度の高さや絵に対する喜びがあったりする。しかし、その変化の幅が立体に比べると少ない。だから立体のほうがよりおもしろいと感じさせられるのだろう。

審査する側が試されたと言ったが、それは平面にしろ立体にしろ、多数の作品一言い換えればそこに詰めこまれた多量の時間一に対して限られた時間のうちに、何がしかの判断を下していくときに起きる。つまり、あるひとつ

の作品を判断するに、判断する側は自分の内部で生じる、その作品を見るいくつもの方向のひとつひとつの適否や、そこに含まれている作者の意図を見きわめられるかということを、瞬時に、そして不斷に問われていく。ある作品が、何かを参照しているならば、それが何であるか。また、独自性をもとうとするとき、それがどれだけ発揮されているか。そうしたことは短時間で判断するのは難しいが、もろもろの判断を下すことで、見る側が試される。

だから、審査の結果は選抜の基準をあらわにすることであり、よりよいとみなされた作品を示すと同時に審査の質を問うことでもある。とりわけ入選した作品のなかから、いくつかの賞を選ぶにあたっては、審査員が替われば、あるいはほとんど作品も入れ替わるかもしれない。それほどに蓋然的であろう。そして審査はいつも、そのように相対的なものである。にもかかわらず、審査制度がそれに何ほどかの絶対性を帯びさせる。

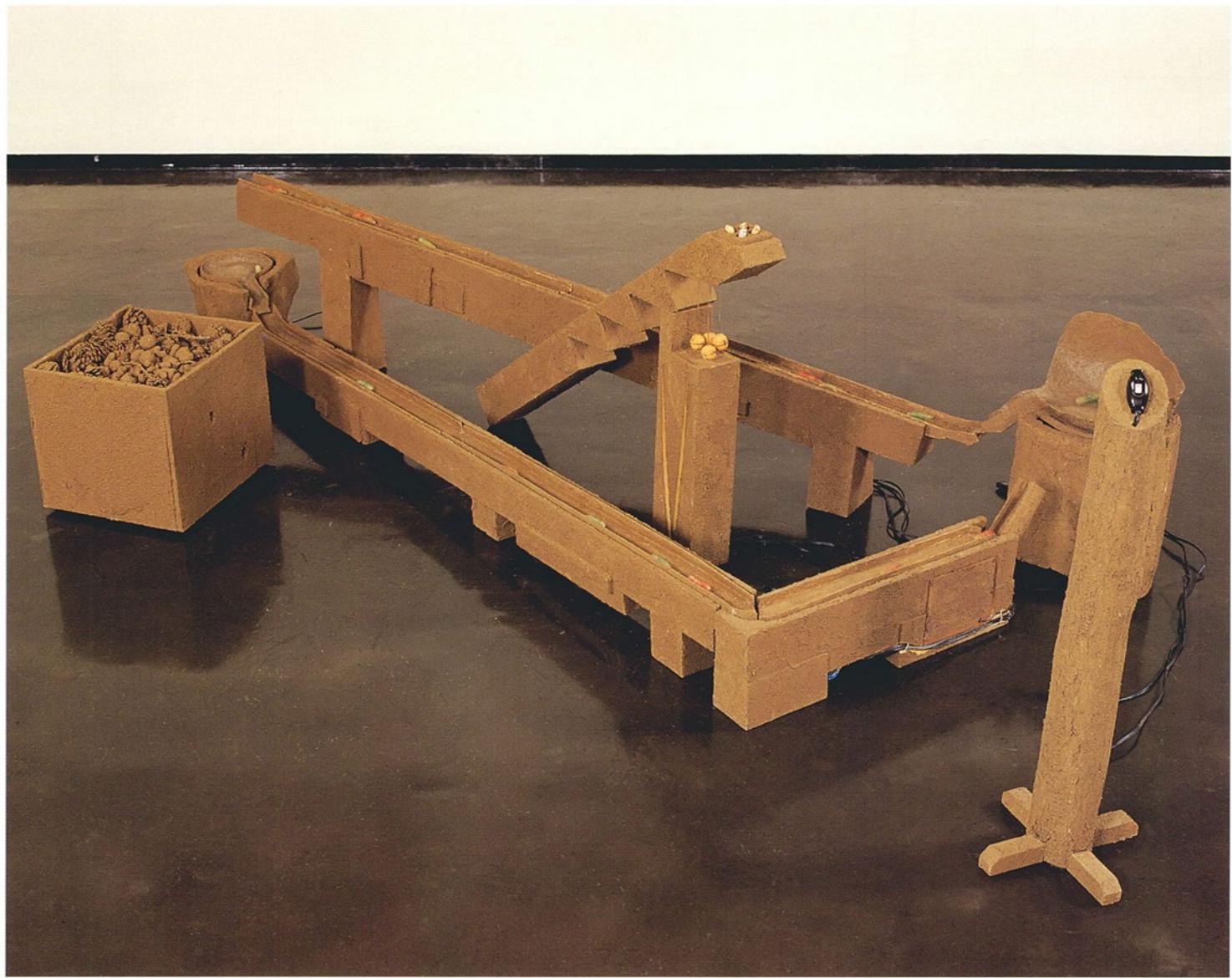
たとえば大賞となった笹井氏の「動植物」は、ネコジャラシの穂を震動で動かし風に乗せて跳躍させる。植物に動物の動きを与え、その着想は微笑ましく楽しめる。廃材を利用して組み立てられたこの作品は、大仰な構えをも

たない優しさのゆえに、賞選考の際に多くの票を集めめた。けれど見方を造形上の構造という角度に変えると、弱いものである。もちろん作者の狙いが強い造形の追求には明らかなだが。それにしてもいくつかの基準を一度に満たしているわけではない。

準大賞の谷川氏の「大地の鼓動」、三沢氏の「コロイドトンプ(ヒトウマ)」でも、前者は厚みのある丹念な描写と周到な構成が見るものに衝撃力を与えるが、その超現実的な要素にはウイーン幻想派の組立て方を連想させる。後者は、無数の物の集積によって作られていることから、社会的なメッセージを含む広がりを獲得しているが、中心にある半獸心の形には稚拙味が宿っている。どの作品もそれぞれの長所において、驚嘆させられるという域には達していない。

平面立体部門の出品点数は566点。うち入選が121点。入選するにはかなり厳しいと言えるだろう。総体的にはこうした類いの展覧会としては高い水準にあった。しかし、入選を競ったり、賞を競うという段階では、差は相対的もので、境界が明確であったわけではない。

山梨 俊夫



【大 賞】立体「動植物」 笹井 弘

略歴 1952—長野県生まれ

1976—東京芸術大学油絵科卒 「安宅賞」

1978—東京芸術大学大学院壁画研究室修了

1979—化学農業を始める

1992—有機農業を始める

1997—自然農法の実験を始める

個展 1976—盛岡第一画廊

1979—Japanese Kite One Man Show, Philadelphia U.S.A

1996—環境彫刻、たまプラーザ東急（横浜）

1997—笹井弘コンセプチュアルアート展、はる工房（つくば市）

グループ展 1992—第5回新人選抜展、山梨県立美術館

1994—第10回記念こうふ展、山梨県立美術館

1995—環境彫刻 & ユーモアート展 最優秀賞、（財）船橋市公園協会

1996—第5回アーバナート展 優秀賞、バルコ

1997—第26回現代日本美術展、東京都美術館

　　「エルノブイリ・メモリアルアート・コンペティション」佳作、

　　「エルノブイリこども基金」

　　第13回富嶽ビエンナーレ、静岡県立美術館

1998—第3回立体小品全国公募展 優秀賞、小野画廊

　　第38回暮らしの発明展 奨励賞、（社）全国発明婦人協会

　　第27回現代日本美術展、東京都美術館

　　第4回平面小品全国公募展（版画）、小野画廊



【準大賞】平面「大地の鼓動」谷川 悅子



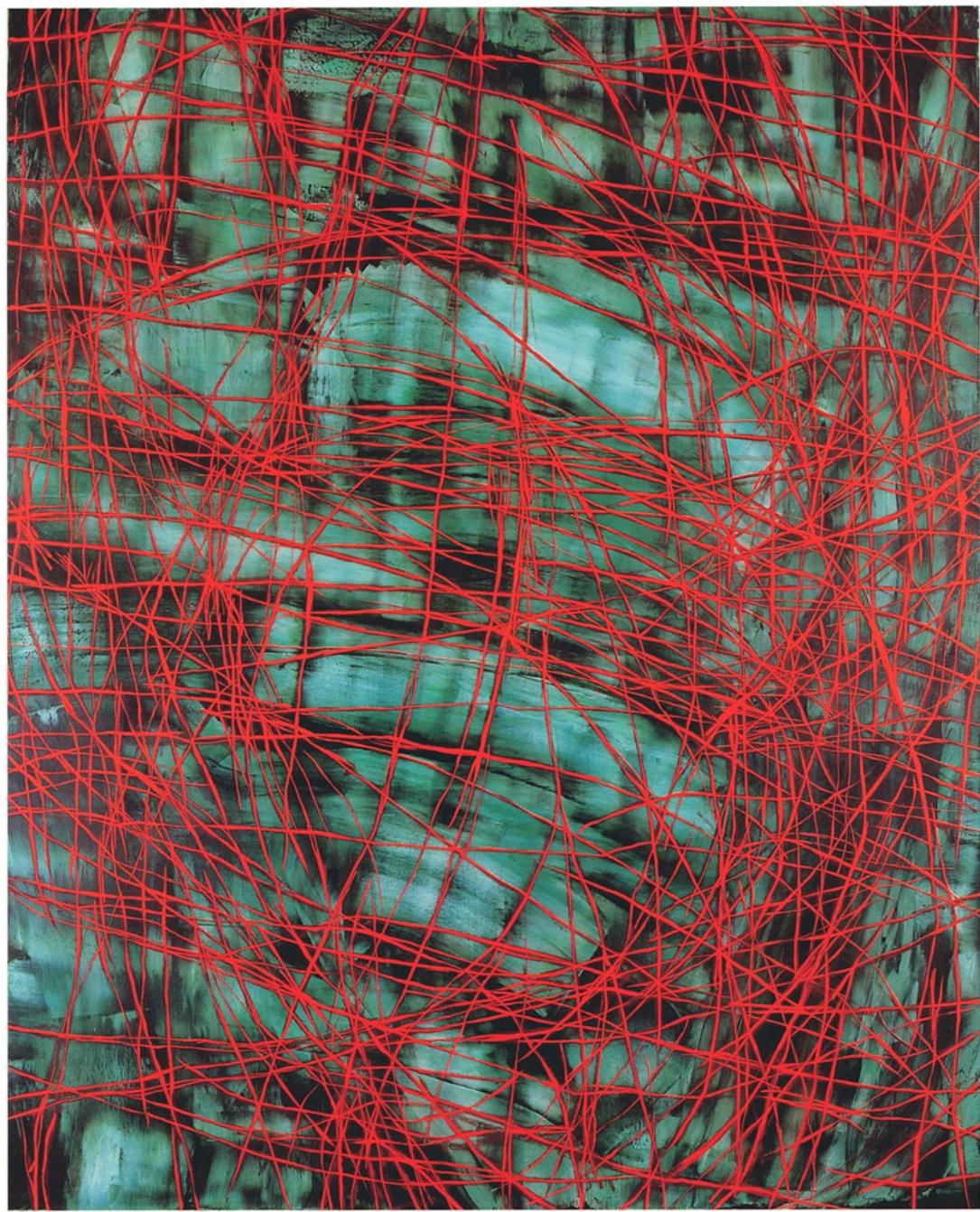
【準大賞】立体 「コロイドトンプ」(ヒトウマ) 三沢 厚彦



【特 選】立体 「TIME CAPSULE 1998—風紋一」 片岡 操



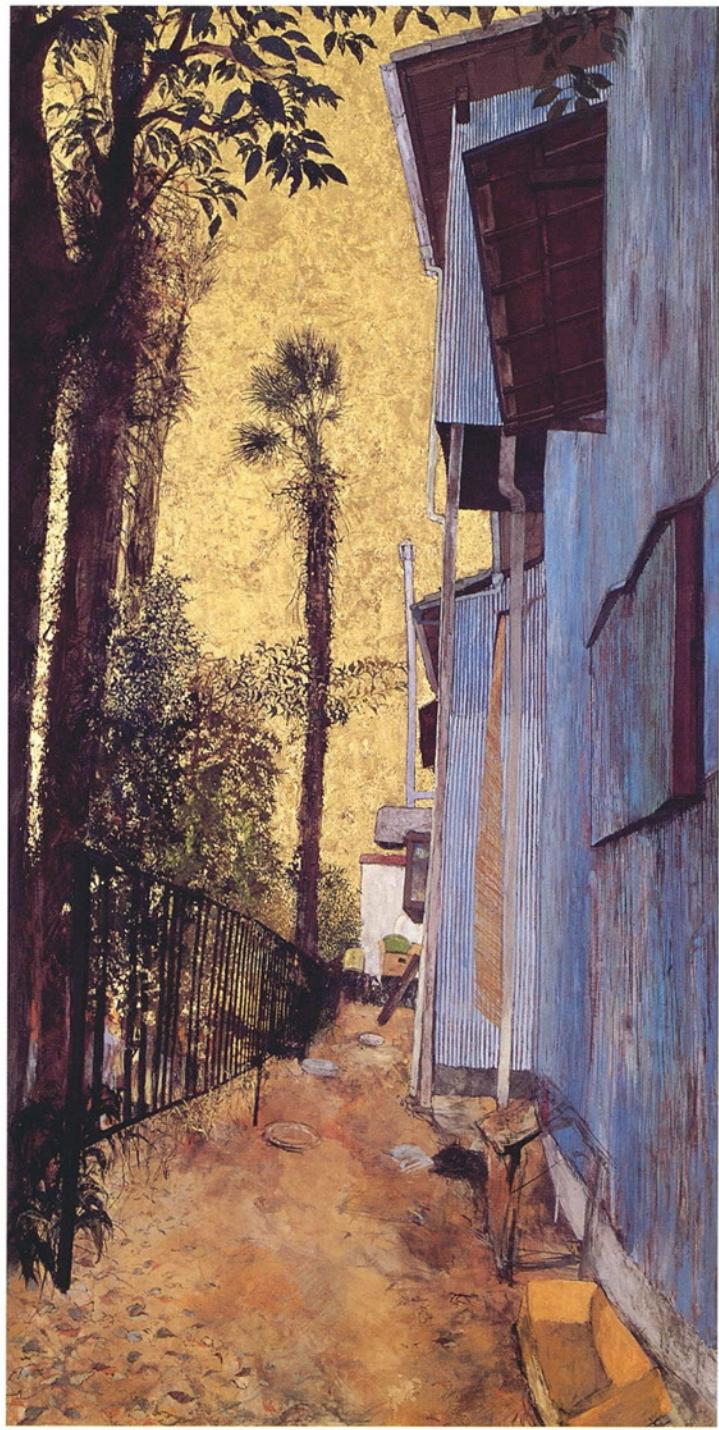
【特選】立体 「第3の夢」 塚本 悅雄



【特 選】平面 「Paraphrase · 74」 菅沼 稔



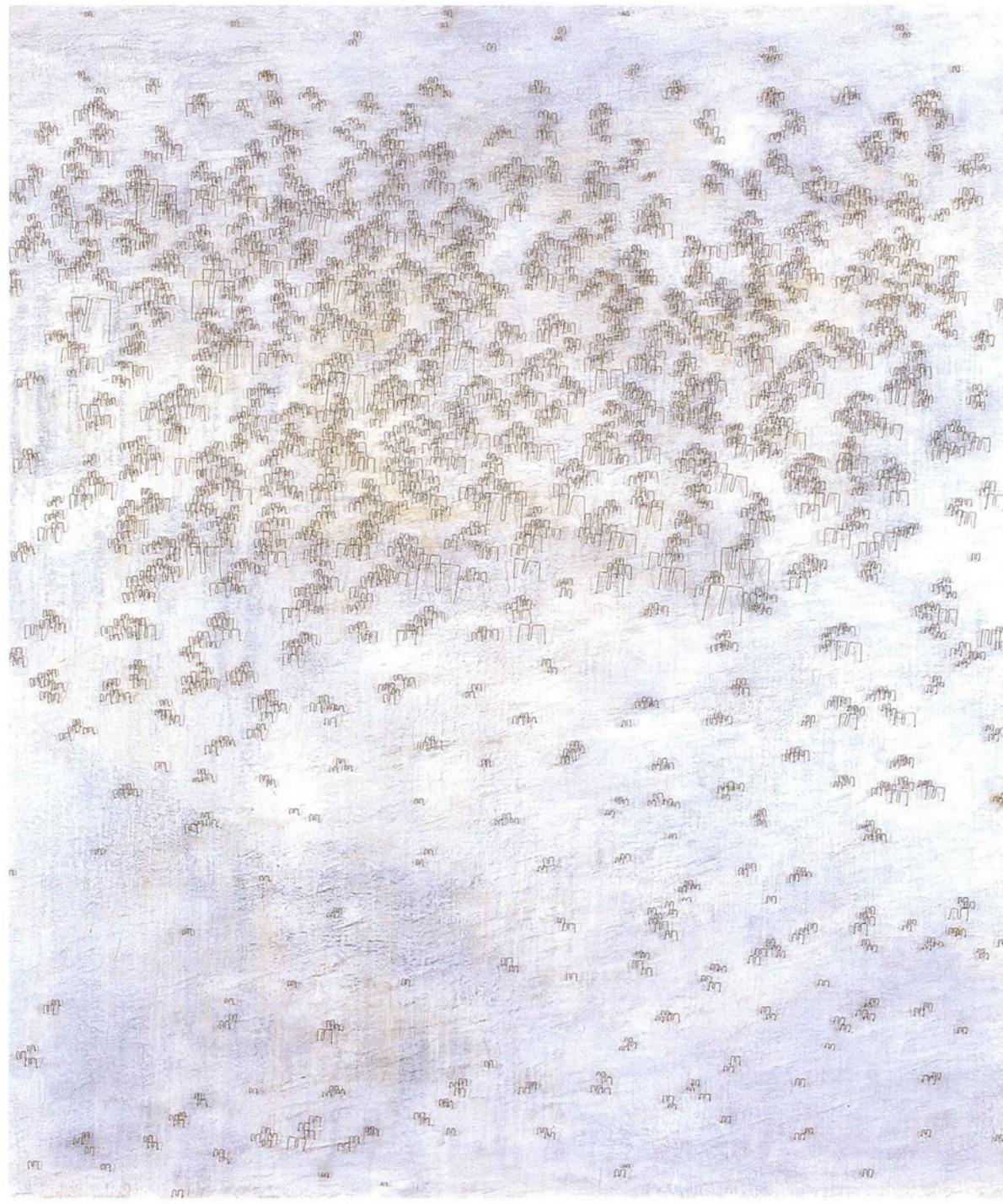
【特選】平面「海辺」池田 美弥子



【県立近代美術館賞】平面「道すがら・夏」長谷川 単



【美術獎学会賞】立体「不可触領域」阿部 佳明



【はまぎん財団賞】平面「未来地」 藤井 浩一郎

2期展

工芸・書・写真

受賞作品目録

《工芸》 大 賞	堀 口 成 依	奈良県北葛城郡広陵町	「M!! きみ想う」
準 大 賞	大 澤 恭 代	厚木市	「水芭蕉」
特 選	齋 藤 龍 也	横浜市	「白化粧象嵌扁壺」
特 選	甲 斐 雪 江	横浜市	「潮騒」
美術奨学会賞	中 里 加奈江	千葉県八千代市	「腐卵器」
美術奨学会賞	砂 崑 瞳 子	横浜市	「ひびき」
美術奨学会賞	志 賀 瑞 保	横浜市	「アシ・アシ」
美術奨学会賞	鶴 田 真 澄	横浜市	「新しい街」

《 書 》 大 賞	大 岸 昌 子	逗子市	「源氏物語」
準 大 賞	村 井 純 子	横浜市	「山家集より」
特 選	浅 羽 紀代子	横浜市	「陶淵明詩」
特 選	日 守 菜穂子	大磯町	「砂煙の中の高昌城」
美術奨学会賞	書 川 昌 子	横浜市	「きみがため」
美術奨学会賞	服 部 青 昌	横浜市	「貫之集より」
美術奨学会賞	白 鹿 光 秋	平塚市	「良寛詩」
美術奨学会賞	石 原 保 子	伊勢原市	「青桐の花」

※美術奨学会賞とは、県内の美術の振興と新進作家の発掘・育成を目的として設立された神奈川県美術奨学会から神奈川県美術展に出品した優秀作家に給付される奨学金です。
※市町名は現住所です。

《写 真》 大 賞	君 塚 宣 良	横浜市	「還暦を迎える階段」
準 大 賞	新 井 完 夫	城山町	「里の自然」
特 選	龍造寺 文 昭	横浜市	「雛飾り」
特 選	鈴 木 良	鎌倉市	「ゴーインに!マイ・ウェイ」(若者シリーズ)
特 選	大 藤 能 憲	東京都世田谷区	「妻」
特 選	石 田 慎 一	鎌倉市	「光遊びII」
美術奨学会賞	原 進	横浜市	「パトリシア・出合」
美術奨学会賞	亀 井 貴 司	横須賀市	「残照のヒマラヤ」
美術奨学会賞	森 屋 泰 光	藤沢市	「女学生」
美術奨学会賞	榊 原 俊 寿	湯河原町	「動物贊歌」
県議会議長賞	佐 分 利 豊	横浜市	「ハマの夏」

入選作品目録

《工芸》

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|---------------------|
| 桑原 平治 | 「黄瀬戸平鉢」 | 石綿 明子 | 「布目蓼文鉢」 |
| 原 恒夫 | 「宇宙パート31」 | 渡辺由紀子 | 「98F ² 」 |
| 遠藤 寿子 | 「刻」 | 大塚美智子 | 「手びねり六角皿萩草」 |
| 岡村 徹 | 「風のものがたり」 | 真塩 傳 | 「壺」 |
| 若林 和正 | 「焼締急須」 | 高野 聖子 | 「優游」 |
| 杉山 紘美 | 「亡父へ…」 | 斎藤 光一 | 「古信楽焼壺」 |
| 小林 輝道 | 「勾玉遊文器」 | 羽鳥 恵子 | 「彩泥象嵌器」 |
| " | 「干潟の愁文」 | 伊東富美子 | 「満天星」 |
| 黒川 富子 | 「母娘陶管(対) (上絵花蛇文足付陶管)」 | 近野 久子 | 「風韻」 |
| " | 「ランプシェード・ぐるぐる」 | 飯島 克己 | 「香合〈深秋〉」 |
| 小川 朋子 | 「汀」 | " | 「手ぐり香合〈憩〉」 |
| 鍋田 政泰 | 「練上組鉢」 | 福島 寛子 | 「吳須絵矢絣文大鉢II」 |
| 足立 治男 | 「瞑想」 | 原みさ枝 | 「土の譜」 |
| 鈴木恵津子 | 「涼」 | 鈴木 陽子 | 「いっちゃん盛大鉢」 |
| 青井 良子 | 「秋の風」 | 佐野 伸司 | 「不安(亀裂98-2)」 |
| 川渕まつ子 | 「みだれ箱 野草染」 | 鈴木しづこ | 「一瞬のたわむれ」 |
| 一色 幸子 | 「何処へ」 | 大泉 武彦 | 「壺」 |
| 本山 洋子 | 「振動」 | 鈴木 亘 | 「練上壺」 |
| 前沢 秀知 | 「斑釉禾目文皿」 | 岩井 尚子 | 「着物」 |
| 木澤 宏子 | 「亀裂」 | 猪本 淑子 | 「備前花器」 |
| " | 「慈愛」 | 村田 則子 | 「壊れゆくII」 |
| 大矢 祐子 | 「華の帶留」 | 西山 義彦 | 「灰釉点描壺」 |
| 角村 治城 | 「虹彩結晶茶碗 落葉」 | " | 「櫛目鉢」 |
| 三橋美恵子 | 「幽玄」 | 馬場 美康 | 「Park(乗る人がいない)」 |
| " | 「稻妻」 | 安井 伸 | 「ひと休み」 |
| 川本ちゑ子 | 「深海の精」 | 天野 孝子 | 「ローケツ染(野草)ノーゼンカツラ」 |
| 阿部 正 | 「孵卵器」 | 金子三女子 | 「露」 |
| " | 「珪藻塔」 | 鈴木 淑子 | 「鳥の人」 |
| 芳野 勝己 | 「紫雲」 | 鎌田 知幸 | 「水指」 |

兜 森 直 子	「孫への贈物」	木 村 桜 子	「月見草」
徳 竹 孝 絵	「生命樹」	小 林 正 光	「無 限」
赤 間 千 乃	「私が創ったもの私が創ってゆくもの」	重 村 都 子	「土器を偲んで」
石 原 加 織	「関 係」	佐 藤 智 子	「O r i g i n—包容—」
多 田 真 弓	「 凛 」	浜 山 春 香	「祭 り」
今 林 三 恵 子	「種たちの棲処」		「いとまき」
川 口 千 乃	「産靈（ムスピ）」	原 田 和 香 子	「風にゆれる」
福 田 良 子	「自然体」	稻 葉 里 き 江	「風 魂」
山 本 美 世 子	「歩 み」	栗 原 恒 子	「恵〈めぐみ〉」
保 田 繁 夫	「たたら積上げ壺」	宮 原 二 三 子	「刺し子はんてん」
相 馬 恒 雄	「透彫焼〆壺」	小 野 里 澄 人	「青紫白泡入文大鉢〈朝靄〉」
天 野 奈 迦	「煌（こう）No.2」	山 下 敦 子	「夢に向かって」
"	「煌（こう）No.3」	関 秀 雄	「ぶどう釉大鉢」
服 部 純	「乾漆 水指」	佐 藤 京 子	「有（う）」
島 村 信 一	「三枚の金」		「無（む）」
松 崎 峰 夫	「白刷毛目銅羅針」	能 代 真 由 美	「この木の花は1225°Cで咲きました。」
"	「白刷毛目長方皿」	川 合 都 美	「落 日」
釣 敬 子	「切子皿」	古 根 香	「あかり」
掛 田 郁 子	「峰'98」	上 田 真 由 美	「流 風」
二 瓶 陽 子	「野草染・からくさ二尺簞笥」	大 原 乾 資	「ネバール麻薙藍板締染のれん」
大 槻 洋 介	「Blue butterfly fish」	尾 形 政 子	「うねり」
伊 藤 律 子	「椀巴紋様」	藤 田 留 美 子	「てっせん大皿」
花 形 澄 子	「Oh The Wining」	山 本 静 枝	「深 秋」
山 口 浩 二	「青内被硝子花器“春に飛II”」	平 子 叔 男	「鎌倉彫手削り手笞 トルコ桔梗」
中 村 良 哉	「乾漆大鉢〈秋影〉」	伊 藤 多 喜 子	「夕映 II」
林 保 美	「乾漆朱塗盤〈和同〉」	植 松 次 男	「さやさやと」
本 田 和 子	「湖〈うみ〉」	勝 田 素 子	「月 影」
米 澤 昌 一 郎	「御深井釉線文壺」	山 田 圭 子	「丸干し」
中 沢 摩 里	「彩漆螺鈿三段重箱」	加 藤 弘 明	「海角釉深鉢」

《書》

大平 綾南	「継色紙の倣書による 伊勢物語のうたを」	岡本 光草	「秋のつゆ」
大矢 重雄	「集殷墟文字檻帖榮編原序王季烈」	佐野 紫蘭	「うすべにに」
齋田 麗華	「(山家集より二首) 花」	矢口 一溪	「良寛詩」
町田 靖穂	「古今集抄」	平田 由江	「李白詩古風 其の十一」
吉田 靖祥	「与謝野晶子歌集より」	成木 初	「杜甫詩 秋与」
荒砂 典子	「良寛のうた」	松本躬代子	「北原白秋詩〈落葉松〉」
矢島 初江	「万葉の歌」	岡崎 香芳	「杜甫詩」
加藤 靖湖	「新古今和歌集より」	黒田 沙嵐	「吳文泰の詩」
仁上 小葉	「寒山詩 (五言律詩)」	小野寺溪春	「客有鶴上仙」
宮崎 菓瑠	「王禹偁詩 〈甘菊冷淘〉」	内藤 慧華	「梅の花」
牧野 幽峰	「秋夕 (良寛)」	中里 健栽	「杜甫詩二首」
大堀 幽抱	「破山寺後禪院 (常建)」	逸見 月草	「白鳥は」
中村 雅枝	「同王徵君洞庭有懷 (張謂)」	伊藤 青光	「三十六歌仙より」
西村 節子	「春」	福谷 青怜	「古今集より」
住本 霞城	「和歌三首」	吉田智世江	「百人一首より」
布野 玉桃	「和歌三首」	伊勢 青京	「新古今集より」
岩崎 菊畦	「和歌八首」	井上 澄江	「百人一首より」
弦間 秀儀	「若山牧水の歌」	佐藤 青香	「和泉式部集より」
川手 敬湖	「新古今集の歌」	筒井 節子	「山家集より」
河又世津子	「うつし世の」	片山 静苑	「杜甫詩」
塩沢 鷺州	「おしなべて」	小山 徳	「觀音経」
中川由紀子	「めづらしき人」	芹田 竹溪	「松竹」
木多 緑舟	「梅の花」	佐野 六郎	「衛八処士に贈る」
森 俊行	「与謝野晶子のうた」	田渕 好子	「程本立律詩 四首」
新井 青谿	「張謂詩・杜侍御送貢物戲贈」	指旗 登美	「西本一都の句」
笠原 映翠	「春の日」	綿貫 吉野	「隱岐の四季」
長尾 雪永	「秋のうた十首」	小林 千幸	「槍沢の朝」
鈴木 白鷺	「ほととぎす」	高橋 秀栄	「槍沢の朝」

中山 政子	「留 守」	滝 泽 秀 石	「真昼の休息」
林田 紀子	「敗荷与謝野鉄幹」	眞 鍋 光 子	「砂時計（自詠）」
松原 隆	「雨に濡れる朱文経」	宮 崎 美 智 子	「中原中也の詩〈盲目の秋〉」
栢木 郁子	「色の名（茨木のり子詩）」	高 橋 玉 枝	「初 恋」
堤 智子	「少年時代（井上陽水の詩）」	安 田 晴 生	「とほ音」
大木 明子	「横田武の詩」	饗 庭 雅 翠	「天のかぐ山」
古屋 恵美子	「坂村真民の詩」	山 本 清 子	「諸橋のお大尽のお藏へ…」
森田 新菜	「落 花」	佐 藤 淑 子	「高田敏子詩〈薔薇〉」
大滝 礼子	「帰 郷」	池 上 百々子	「立原道造の虹とひとつ」
土屋 郁英	「未明の馬」	野 澤 恵	「堀 辰雄の詩」
大木 銀子	「心象（中原中也詩）」	井 上 綾 子	「茂吉のうた」
志村 寿女	「島崎藤村詩〈明星〉」	福 本 泰 子	「塩崎千代子の歌」
吉田 萬里	「吉野弘詩〈石仏〉」	内 野 淑 子	「花」
片平 執子	「福田美鈴の泣く街」	成 原 雪 子	「樹のこえ」
佐野 幸代	「長谷川富貴〈藤の花〉」	須 永 正 子	「朧月夜」
廣川 心齋	「短歌 根木俊三」	野 田 容 子	「あいうえおうた」
梅田 昌葉	「詩 竹中 郁〈光の檻縫より〉」	大 坂 京 子	「白秋の蘭亭の遊びより」
馬場 虹苑	「俳句 青柳志解樹」	松 下 祐 子	「子すづめ」
深川 静燕	「俳句 杉田久女」	沖 田 春 江	「こころざし」
柴本 華雪	「シェリーの詩 〈思い出より〉」	土 屋 幹 子	「鰻と蛙」
八木 静香	「忘れられた魂」	井 上 木 凤	「阮籍の詩 詠懷詩十七首（其の一）」
杉森 伯泉	「自 詠」	野 頭 莊 雲	「観別者」
三谷 麗月	「揚子江」	小 山 莊 雪	「早朝大明宮呈兩省僚友」
茂又 武子	「たんぽぼ」	池 田 莊 春	「望鯨門」
相馬 澄月	「高木秀吉詩〈櫻島〉」	渋 谷 莊 江	「唐 詩」
小平 松苑	「柳葉魚」	神 藤 莊 松	「唐 詩」
及川 節子	「遠い祭より」	飯 田 容 風	「良寛詩」
上村 仙石	「三好達治の詩〈曲浦吟〉」	成 田 敏 子	「夢」

戸ヶ崎光子	「星」	紙崎 隆	「漢詩」
古谷 史枝	「百人一首より」	高橋 彩秀	「夕月夜」
浅間 静江	「かな蕉村詩」	平松千恵子	「王漁洋詩」
中村 咲子	「さけばちる」	谷口 春泉	「杜甫詩」
加藤 翠郷	「陶淵明詩」	佐藤 柚処	「登浮碧樓」
庵 華翠	「高攀龍詩」	村松 桃華	「杜甫詩」
田端 蒼秀	「朱衡詩〈十四夜待月〉」	廣町 茜泉	「趙延壽詩」
明石 蕙州	「大寺のまろき柱…」	上原 華泉	「王萃詩」
岡本 蘇心	「若山牧水の歌二首」	橋本 芳雪	「新古今和歌集二首」
高木 志野	「和歌体十種」	小林 廣洲	「初秋寄子由」
古田 泰子	「紫式部集」	山本 花聲	「李青蓮詩」
宮川 勝美	「臨〈木簡〉」	松本 亘正	「蘇東坡詩」
長繩 和夫	「経下邳把橋懷張子房（李白詩五言古詩）」	神原 秋翠	「古今和歌集より」
阿部 洋子	「初夏の雲」	渡辺 悟竹	「霧川道中」
曾根美恵子	「秋」	門田 可寿	「顧清詩」
佐藤 香子	「富士の高嶺」	山田 恵茜	「王維詩 藍田山石門精舍」
和田 清泉	「夏草」	横山 蘭葉	「杜甫詩」
金澤 昭子	「野菊」	菅井 穂谷	「曹植詩」
稻葉 竹苑	「短歌（行）」	山野 景翠	「杜甫詩」
池上 好子	「秋」	加藤 晴泰	「李白詩」
早瀬 香谷	「禪語」	坂神 深陽	「秋懷」
柴田 李笙	「魏學洢詩」	元松 松茜	「五言排律・蘇頌詩」
佐藤 俊恵	「さ日しさに」	増木 萌寿	「白居易詩〈杭州春望〉」
米澤千恵子	「玉藻かる」	長澤 公雅	「棧道中作〈王庭〉」
内田 恵洋	「秋ゆくと」	井澤 洋高	「種蓮（翁方綱詩）」
鈴木 天鳴	「宿瑩公禪房聞梵」	木下 静朝	「李白詩」
木下 滔泉	「和賈至舍人早朝大明宮之作」	森山 径陽	「有恒道院 刘嗣綱詩」
田所 寿泉	「九日登仙臺呈劉明府」	和田 静月	「常建詩」

《写真》

小倉 寛葉	「蔣士銓詩」	住山 喜足	「おわら風の盆」
茶木 静萌	「種蓮」	植原 健吉	「語らい」
岩村 蘭暎	「良寛詩」	植松 弘保	「春霞み」
風間 小羊	「對酒憶賀監」	鈴木 かよ子	「朝もやの中」
木村 晴雲	「李白詩」	西島 公宣	「19の記録(1)」
鈴木 青秀	「杜甫詩」	佐藤 克彦	「一夜干し」
天形 青遙	「王維詩」	栗栖佐保子	「深山路」
安部 梅陽	「陸游詩」	富山 幸子	「カミニート〈小径〉」
長谷川右扇	「藍仁詩」	森 功	「たいさんぼく」
杉浦 右花	「岑參詩」	松島 章	「白鳥幻想」
石井 右千	「張九齡詩」	山田 勝巳	「複合のゲーム」
小川 右佳	「劉基詩」	鈴木喜三郎	「ファンタジー」
菱田 右紫	「元好問詩」	渡辺ミサ子	「瞬光」
東山 右徹	「白居易詩」	酒井 いちろう	「朝の光(七里ヶ浜)」
大江喜幸江	「あかねさす」	後藤 貞則	「幻想の郷」
村山 ちい	「寸松庵色紙」	松葉 良知	「雨の日」
川添 紅琇	「杜甫詩〈虎牙行〉」	村上 一雄	「天空花I」
鳥居 節葉	「月儀帖(抄)」	矢花 一弘	「ライフステージ」
貝原 積眞	「東湖詩」	今福 克	「嫁いだ日」
青木 湘堂	「李賀詩〈老夫採玉歌〉」	川村 利雄	「初冬の尾瀬ヶ原」
杉森 玉園	「月儀帖(抄)」	松岡 達也	「作品A」
神東 榮春	「李夢陽詩〈田園雜詩〉」	武山 敬子	「雲海に乗って」
		長谷川雄二	「しばれる朝」
		和田 實	「タンジェの朝」
		小林 義雄	「美しき棚田」
		小澤 幸	「春らんまん」
		樋口 音治	「雨后」
		斎藤 勝正	「出番前」

-
- 仲俣 勝子 「Sea birds」
吉田 陽子 「ナミブの女」
高橋 奨 「塩舞」
豊浜 恭子 「はい、ぼーず」
田口 清 「朝の路地裏」
小島 英雄 「梅雨晴れ」
渡辺 富司 「年輪」
蒲池 功 「HO CHI MINH NIGHT」
阿部トミ子 「水の彩」
清水 光 「花おぼろ」
大畠 礼典 「三日月の登る頃」
臼井 孝 「面1」
大山千恵子 「祭りの日」
荒井みどり 「斜陽」
和田 幸夫 「眞昼のロードス島」
木村美穂子 「蟬の行列」
岡部 恭一 「青春の躍動」
福元 雅子 「晩秋の光」
向後 裕子 「昼さがり」
中矢 忠雄 「惜春・さくら路」
岩澤 延恭 「朝霧の中より」
鈴木 康代 「竜頭の滝」
船山恵美代 「ファンタジー」
上條精一郎 「夏宵瞬映」
田村 健次 「湘南ひらつか七夕まつり -2」
井上喜和子 「食欲旺盛」
高橋 康資 「ボート・セーリング」
安藤 肇 「都をどりの頃」
- 原田みさ子 「祭りの人々」
北原 実 「光芒」
坂上 豊 「晩秋」
青砥 文俊 「旅の印象(1)」
福居 寛美 「Station」
西村 栄八 「雨中戦」
本間 英夫 「立山春彩」
大関 通夫 「花万灯」
今野 良一 「現代っ子」
福谷 敏明 「連鳳」
長根 直幸 「地底湖」
西尾 純子 「白いチューリップ」
吉田 喜久 「春」
木内 敏行 「1998年3月14日、渋沢にて」
小松 寛之 「沈黙」
大久保隆司 「My Baby」
黒野 秀子 「幸せの道」
佐分利頌子 「決闘寸景」
彦坂 勝良 「弾く」
野瀬ゆき子 「一粒の種」
萩谷 芳美 「幻舞」
田中 純一 「Portrait」
齋藤 紀雄 「夜明け」

審査経過

《工芸》

工芸部門では出品者、応募作品とも前回より若干上回り、それぞれ201人、264点だった。ここ数年わずかずつだが増加傾向にあることは喜ばしい。分野としては陶芸が最も多く、染織、ガラス、金属、人形、漆芸、木工、竹工などバラエティーに富んでいる。作品の傾向も壺、食器、皿、箱などの器や着物など伝統的なスタイルの作品から、抽象的な造形作品までさまざまだった。作品のレベルは比較的そろっていたように思う。特に抜きんでているものあまり見受けられなかつたかわり、一見して落選というのも少なかつた。工芸制作にある程度経験を重ねた人が出品していることがその理由と思われる。また、神奈川県展では当然、多数の出品があるだろうと予想していた鎌倉彫の作品が数点しかなかつたのは、いささかさみしい気がした。

の中では、染織、七宝などの壁面作品に力作が多く見られたようだ。賞候補に選ばれたのもそれらの中から取り上げられたものが多かった。その反対に、作品を制作するにあたって、漫然と作っているようなものも多数あつたように感じられた。何を表現したいのか、何を見て欲しいのかという、作る側の思いを作品にもっと込めたものが欲しい。工芸はなかなかそうした表

現が出しにくい分野だとしても、努力は自ずと作品に表れるであろう。

審査にあたっては、まず入選作品を決定し、その中から賞候補を選び出し、受賞作品を決めるという方法がとられた。入選作品は第一回目の投票で99点が選ばれ、更に二回目の投票を行って25点が追加されて、合計124点が決まった。そして、入選作品の中から賞候補が18点挙げられ、各賞が選考されたのである。賞の選出にあたっては、大賞、準大賞をまず決定した。その後改めて残りの賞候補の中から特選を2点選び出し、さらに残りの候補作品の中から美術奨学会賞4点を選出した。賞の選考の途中で、壁面作品が賞のほとんどを占めるのではないかとの声もでたが、結果から見ると、まずはバランスが取れたのではないかと思う。

大賞の堀口成依「M!! きみ想う」は非常に迫力のある作品である。太い糸を織った独特の効果や織物の生み出す自然な曲面をうまく生かしており、赤と白の色彩のコントラストや紐の効果的な使用など、伝統性を感じさせながら、新鮮な魅力がある。準大賞の大澤恭代「水芭蕉」は、爽やかな印象を与える型染めの着物である。朱・黄・緑で表された文様は型染め独特の心地よいリズム感がある。

特選は齋藤龍也「白化粧象嵌扁壺」、甲斐雪江「潮騒」の2点となった。前者は陶芸で、黒くマットに仕上げた表面の上に斜めに白いストライプ模様を入れ、やや強すぎる嫌いのある形と微妙なバランスを保っている。後者は人形で、ブルーを主体とした色彩が全体のフォルムを生かし、表情も豊かな秀作である。美術奨学会賞には鶴田真澄の染色パネル「新しい街」、砂畠睦子の金属と纖維によるタペストリー「ひびき」、志賀瑞保の動物を連想させる陶芸作品「アシ・アシ」、中里加奈江の陶芸による立体作品「腐卵器」の4点が選ばれた。

白石 和己

《書》

本県の書部門は、漢字、かな、近代詩文書の三部門より成り立っている。本年はその数において若干減少したが、これは昨今の社会現象ではやむを得ないことである。そしてこの三部門はそれぞれがこの県の特徴をあらわしている。漢字部門は、漢字王国として他県に類を見ない強力なものであったのが、この数年この三部門のなかでは一番低迷している。これといった作品が出てこない今回も同様であった。それは、有能な人達がここを巣立つて中央展で活躍し、後に続く者がそうすぐには出てこないので、このような現象が出ているのである。

これが昔日の様相を見るにはまだ数年を要するかも知れない。それに比べると「かな」は近年著しい進歩を見ている。「かな」には大きい字のかなと小さい字のかながあるが、どちらかというと中央書壇では、大きい字のかなが多くなっている。ところが、本県では平安朝の草かなの小字のかなが特に優れている。今回大賞の大岸昌子さんの「源氏物語」と準大賞の村井純子さんの「山家集より」の二点は特によかった。そして、最後にこの二点を決選投票によって決めたほどである。近代詩文書は所によっては例えば、日展、読売展はこれを調和体といっている

が、要は漢字かな交じりの文のことである。これには漢字を主としてその前後にかなを並べるものもあり、かなを主体にしてそこへ漢字を入れてある表現もあるが、どちらかと言うと漢字主体の方が見せ場を作りやすいのかも知れない。

今回の受賞作もこの表現であった。この中にあって表現的な変化があったのは、せめてもの救いであった。墨色だけは黒一色でもう少し薄墨で表現したら柔い表現をみせられるのではないかと惜しまれる、そんな配慮が必要ではないだろうか。毎年同じようなことを言っているがこういう事は言うは易しには違いないがなかなか変わるものではない。しかし、駄目だと言わず心掛け実行に移すことこそ必要かも知れない。

吉田 蘭處

《写真》

・総評

最初に第34回神奈川県美術展の出品状況について説明します。今回から作品の募集について四ツ切りサイズとしたところ、昨年に比べて約3倍を越す応募でした。応募人数は166名、533点の作品を机の上に並べ、良いと思われる作品を7人の審査員が投票した結果、第一次審査で250点が選ばれ、その中から第二次審査で同じく投票で審査した結果、92名、153点が入選に決定いたしました。その入選作品の中から上位入賞の11点をさらに投票によって選考した。各審査員の先生方がそれぞれの意見を述べ、最終的に君塚宣良「還暦を迎える階段」が大賞に選ばれました。限られた上位入賞作品11点だけに、惜しくも僅差で入賞できなかった作品が13点もありました。その他入選作品にも優れた作品が多く、応募作品533点の中から約3分の2の作品が選外となりました。また来年に大いに期待したいと思います。

浜口タカシ（写真家）

・印象に残った作品

1点は特選の「妻」（大藤能憲）です。確かにこの方は昨年もヌードを出されていました。僕は、この人のもう1つの作品のヌードの方がいいと思いました

が、結局あまりいじらず、ストレートに妻の存在というか、色気を出した写真の方が評価が高い、と言うことですね。もう1点は、特選の「雛飾り」(龍造寺文昭)で、これは気になる写真です。偶然かもしれません、雛飾りのある種の不気味な感じや、神秘的な雰囲気みたいなものが出ています。あまり構えずに撮ったので上手くいったのでしょうか、扉の陰に見えている紅い絣毛氈が、非常に感覚を刺激していて、それが上手い作品です。

飯沢耕太郎 (写真評論家)

・準大賞「里の自然」新井完夫、
県議会議長賞「ハマの夏」佐分利豊
「里の自然」は日頃見逃してしまったような自然界の営みを巧みに捕らえている。特にカエルが水面から顔を出している写真はユーモアもあり、撮影者の自然に向ける目の素晴らしいしさを感じられる。トンボと蜂の巣も観察眼もさることながら、光線の扱い方も的確で、優れた作品に仕上がった。「ハマの夏」は布にくるまれてすやすや眠る子供の写真がポイントになっている。親の愛情を感じさせる毛布の柔らかさと、子供の寝顔ともに質感を出して柔らかいタッチに仕上げたことが救いとなつた。また現代の若者たち二人連れのア

ベックを捕らえ「ハマの夏」をうまく表現された。

岩崎隆久 (神奈川新聞写真部長)

・特選「光遊び」石田慎一

万華鏡のような多彩な光と複雑な線で構成された豪華な画像。タイトルのように見る側の目を“光の遊び”に誘ってくれる。コンピューターを介して描き出した仮想空間だが、確かな技術に裏づけられた存在感がある。コンピューターで処理した作品は他にも何点かあったが、高い完成度が目を引いた。

江成常夫 (写真家)

・大賞「還暦を迎えた階段」君塚宣良

大賞作品は一頭地抜け出て、テーマ性をしっかり掘んで3枚組で構成していた。古びた集合住宅のコンクリート階段を毎日上り下りした記憶のよみがえりと現在とのかかわり陰翳深いアンダー調の表現で描いたその心理的な奥行きに説得力があった。

岡井燿毅 (フォト・ジャーナリスト)

・特選「ゴーインに!マイ・ウェイ」鈴木良、

美術奨学会賞「女学生」森屋泰光

世紀末のいま明るい未来論を聞くことがない。「ゴーインに!マイ・ウェイ」は、そんな時代状況を反映した、暗く、

退廃的なイメージがおもしろい。「女学生」は、実に明るく、大胆、満ちあふれる若さが表現されているのがよい。顔の表情にとどまらず、身体全体の動きを見事にとらえている。

土田ヒロミ (写真家)

・美術奨学会賞3点

亀井貴司「残照のヒマラヤ」は雄大な世界最高峰の山脈の一角を気象変化に合わせ、ズバリ切り取り迫力を出している。足でかせぐ山の魅力と言えるでしょう。原進「パトリシア・夏」はモデルを使っての画面づくりのうまさ、面白さ、なかなかのテクニシャンぶりに感心します。榎原俊寿「動物賛歌」はペリカン、ゾウ、キリンの動物三態を的確なシャッターチャンスで捉えている。モノクロ調子、技術的にも申し分ない。

西村建子 (写真家)



【大賞】工芸「M!! きみ想う」堀口 成依

略歴

神奈川県生まれ

1968—東京写真専門学校 卒業

1986—東京テキスタイル研究所中退

個展

1995—ギャラリー砌

グループ展 1986—神奈川県美術展入選 ('87、「88、「94、「95)

1990—大阪工芸展入選 ('93)

1995—大阪工芸展 造幣局長賞

朝日クラフト展入選 ('97)

1997—神奈川県美術展 美術奨学会賞

大阪工芸展 大阪教育委員会賞



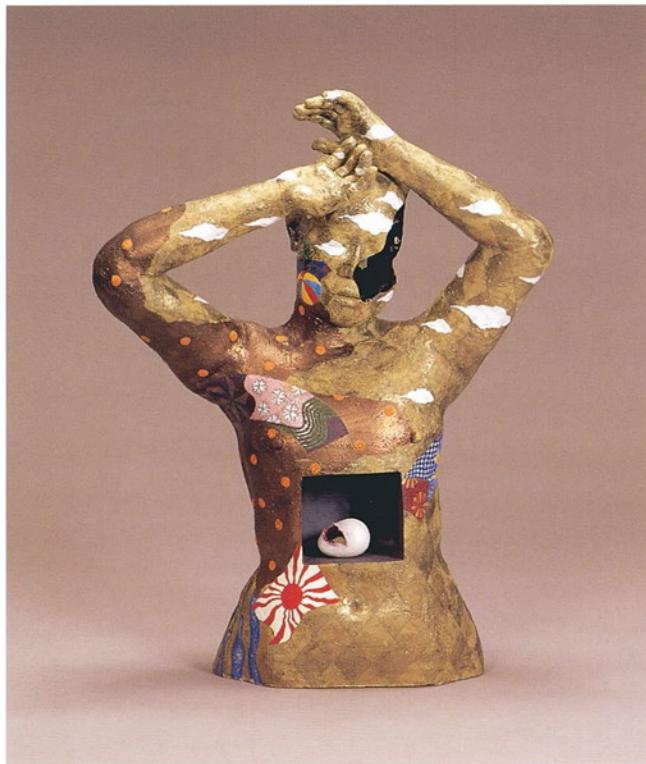
【準大賞】工芸「水芭蕉」大澤 恭代



【特 選】工芸「白化粧象嵌扁壺」齋藤 龍也



【特 選】工芸「潮騒」甲斐 雪江



【美術獎学会賞】工芸 「腐卵器」 中里 加奈江



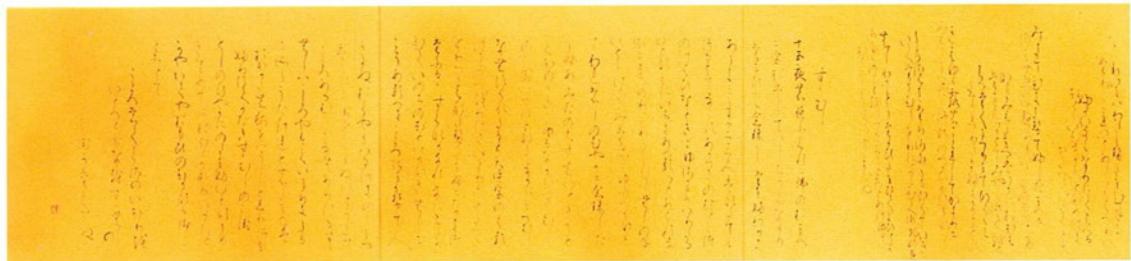
【美術獎学会賞】工芸 「ひびき」 砂畠 瞳子



【美術獎学会賞】工芸 「アシ・アシ」 志賀 瑞保



【美術獎学会賞】工芸 「新しい街」 鶴田 真澄

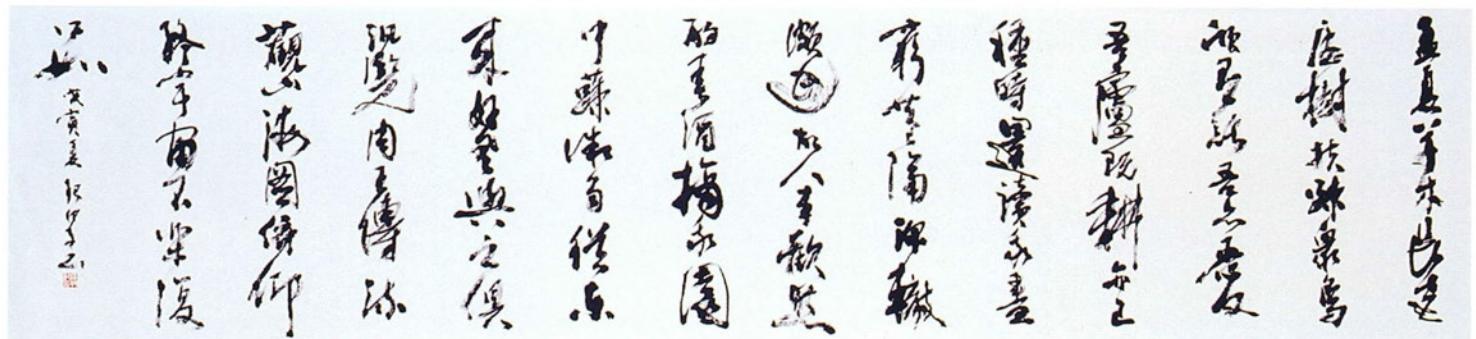


【大賞】書「源氏物語」大岸 昌子

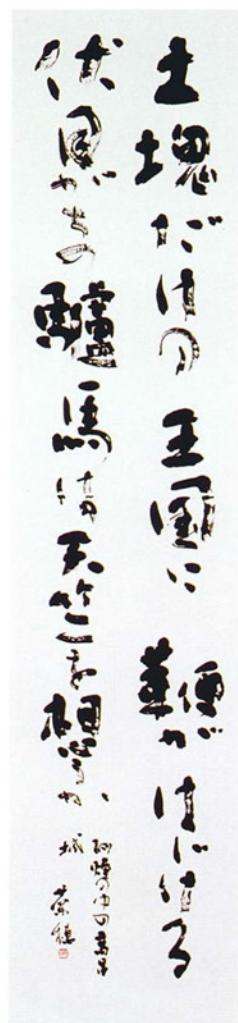
略歴 兵庫県生まれ
1989—飯田美砂子、大江喜桂華に入門
1994—書道春秋社 師範合格
読売書法会 入選5回
1995—神奈川県美術展 入選4回



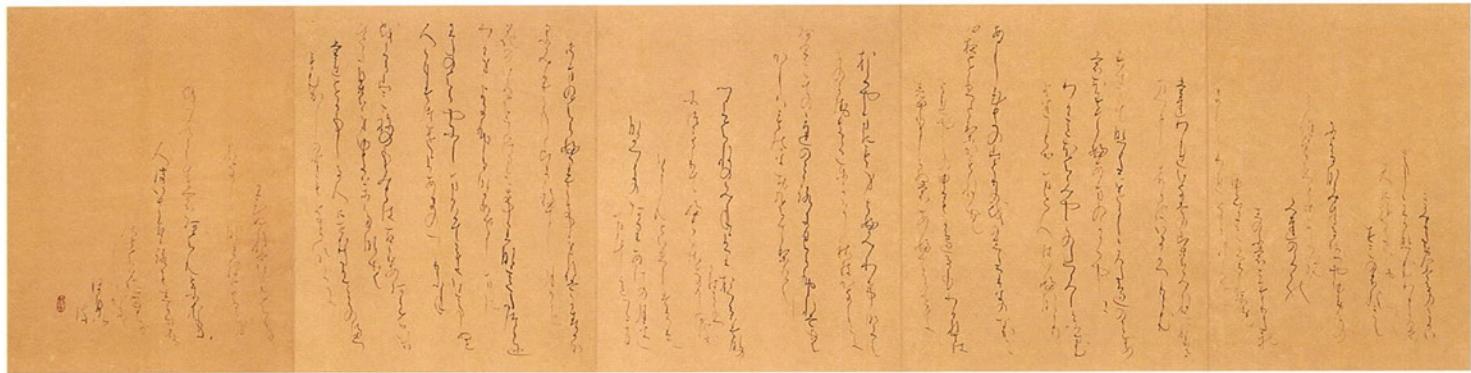
【準大賞】書「山家集より」村井 純子



【特 選】書「陶淵明詩」浅羽 紀代子



【特 選】書「砂煙の中の高昌城」日守 菜穂子



【美術獎学会賞】書 「きみがため」 書川 昌子



【美術獎学会賞】書 「貫之集より」 服部 青昌



【美術獎学会賞】書 「良寛詩」 白鹿 光秋



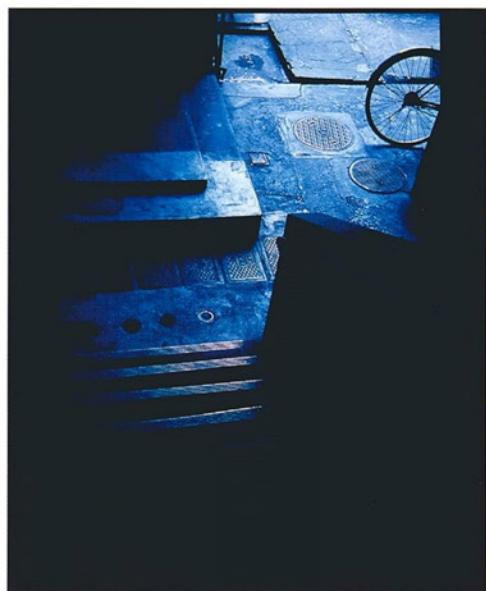
【美術奨学会賞】書 「青桐の花」 石原 保子



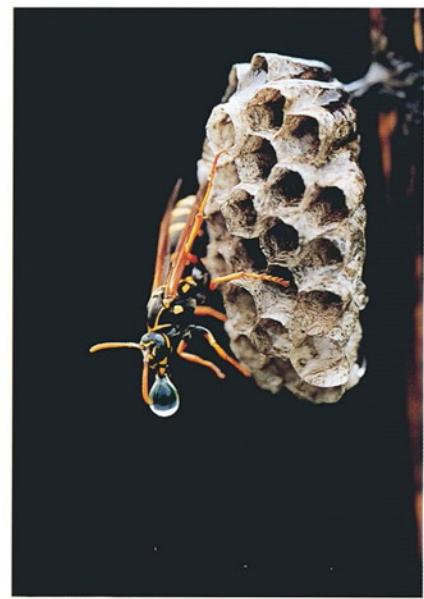
【大賞】写真「還暦を迎える階段」君塚 宣良

略歴 1940—東京生まれ
青山学院大学卒
日本アイビーエム勤務後フリー
写真家雪松覚(JPA)に師事
1995—第51回ハマ展入選('97)
1996—第32回神奈川県美術展入選
1997—ジェームズ・コワニャール賞受賞(ART GRAPH誌)
1996~98 国画会3年連続入選

戸塚雪松写真同好会会員

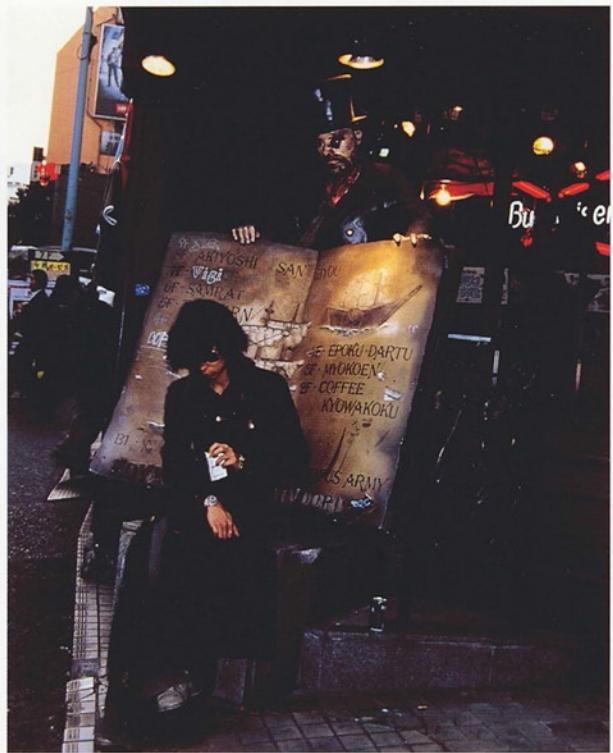


【準大賞】写真 「里の自然」 新井 完夫





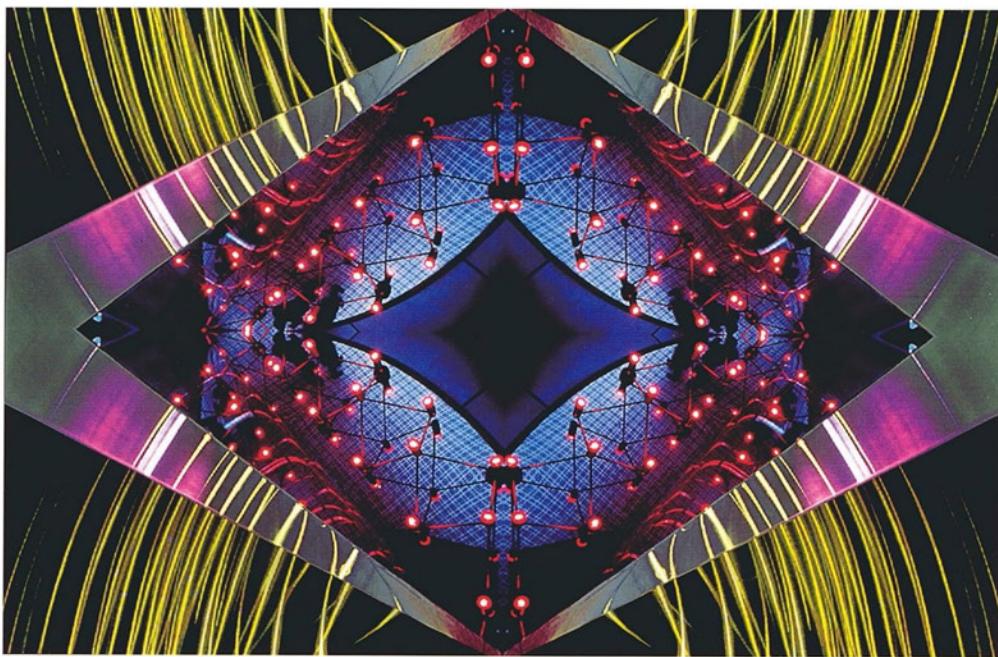
【特選】写真「雛飾り」龍造寺 文昭



【特選】写真「ゴーインに！マイ・ウェイ」鈴木 良



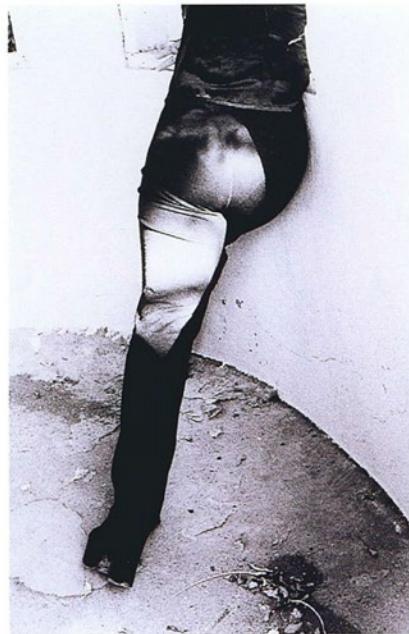
【特 選】写真「妻」大藤 能憲



【特 選】写真「光遊びⅡ」石田 慎一



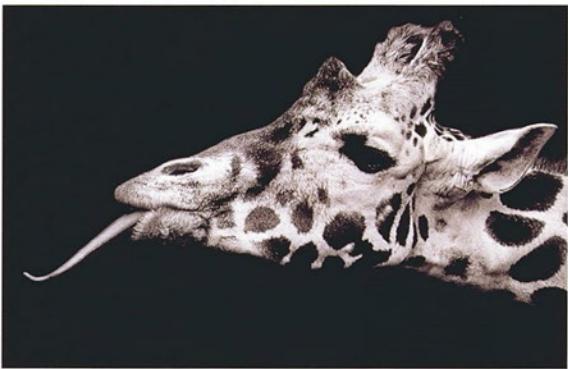
【美術奨学会賞】写真 「パトリシア・出合」 原 進



【美術奨学会賞】写真 「残照のヒマラヤ」 亀井 貴司



【美術獎学会賞】写真 「女学生」 森屋 泰光



【美術獎学会賞】写真 「動物賛歌」 榊原 俊寿



【県議会議長賞】写真「ハマの夏」佐分利 豊

大賞受賞者

第1回 昭和40年度 大森 運夫『九十九里』日本画	第21回 60年度 鶴見 厚子『夢の質感』洋画
第2回 41年度 廣瀬 義男『作品Ⅰ』洋画	石渡 四郎『硫黄島の再会』写真
第3回 42年度 垣内 治雄『坐る』彫刻	第22回 61年度 会田富二男『駆けゆく母子像』彫刻
第4回 43年度 川村 直子『'69-A・'69-B』洋画	浜本 艸舟『良寛詩』書
第5回 44年度 山井イク夫『Laby 70-1・2』立体造形	第23回 62年度 高橋 洋子『WAVE(BLUE FENCE)』立体造形
第6回 45年度 伊藤 彰『天涯巡礼』日本画 大久保利園『Straw』工芸 西川 万象『盧子諺詩』書 加賀谷武男『にっぽんNONSENSE ZONE』写真	森山 可余『俳句(原石鼎)』書
第7回 46年度 中西新太郎『落日』洋画 島津 碧嵐『寒山詩』書 大谷 正夫『師ミス・ザンダー(フェリス女学院)』写真	第24回 63年度 三枝 孝司『複製された場所』版画 管間ゆみい『夢印象』工芸
第8回 47年度 佐々木英夫『人間の風景1・2』版画 林 良達『騎士』工芸	第25回 平成元年度 セツ・スズキ『アンタニアワカルメ』彫刻 片岡 順一『大気現象』写真
第9回 48年度 河原 明『蜻蛉』彫刻 石川 充宏『Girl in chair』工芸	第26回 2年度 山本 靖久『時の化石—豊沃のかたち』洋画 高橋あづま『遙かなる亜熱帯』工芸
第10回 49年度 大山 鎮『語り』日本画	第27回 3年度 荒井 正美『蟻の迷走』彫刻 相沢 順一『樹界』写真
第11回 50年度 鎌田 恵子『Lost my way』工芸	第28回 4年度 たべけんぞう『MAGNETIC FIELD 92-2』立体造形 中森 万象『郎士元詩』書
第12回 51年度 泉谷 淑夫『愁傷のモニュメント』洋画	第29回 5年度 王 青『チベットの娘』日本画 平野 朱美『電解ザウルス』工芸
第13回 52年度 井上 麦『黒の女'77』彫刻	第30回 6年度 辻 忍『野辺』彫刻・立体造形 八木 香葉『笹澤美明詩 菊』書
第14回 53年度 坂田 一之『MIRROR』立体造形	第31回 7年度 R 津田『封印—過去と未来—』彫刻・立体造形 中田 文『阿弥陀堂金』工芸
第15回 54年度 前本 利彦『暗い部屋Ⅰ・Ⅱ』日本画 川口 流坡『菅原道真詩』書	第32回 8年度 結城 勉『個々の領域一群像Ⅱ』平面・立体 今井今日子『Twilight—黄昏—』工芸 中西 雅舟『百人一首より』書 中谷 晴男『山の民(ネバール)』写真
第16回 55年度 和久井Who『HANGING』立体造形 市原 欣一『ふるさと』写真	第33回 9年度 劍持 啓子『SANAGI—予兆』平面・立体 村田 則子『レクイエム』工芸 島田 幸舟『白鳥』書 渡部 満『1.8朝』写真
第17回 56年度 坂井 彰夫『SEISHO』彫刻 高木 参平『BODY』工芸	第34回 10年度 笹井 弘『動植物』平面立体 堀口 成依『M!! きみ想う』工芸 大岸 昌子『源氏物語』書 君塚 宣良『還暦を迎える階段』写真
第18回 57年度 小泉 正彦『冬の木』洋画 井上 隆敏『イグナドバ選手』写真	
第19回 58年度 井上 麦『土の系譜』彫刻 茶木 静谷『竹聲松影』書	
第20回 59年度 東谷 武実『日蝕F』版画 西 雅秋『CASTING VIEWPOINT』野外彫刻 林 亘『クリスタル大鉢“洞”』工芸	

もっと近くに、ずっと一緒に。



Good for you
CERTE

〒231-0016 横浜市中区真砂町3-33 (JR・地下鉄関内駅前) TEL 045-651-1431(代)

7つの魅力を身にまとう。 タカシマヤカード



入会金・年会費
すべて無料!

お申し込み受付中。

●お申し込み・お問い合わせは、

(横浜店6階・玉川店5階・港南台店4階クレジットカウンターまで)

トクするカードで、トクする暮らしはじめましょう。

★特典 1 タカシマヤカードでのお買物で、ポイントを集めると「お買物券」をプレゼント。

お買上げ額100円ごとに7ポイントを進呈。獲得ポイントが
2,000ポイントになった時点で、2,000円のお買物券と交換
できます。ポイント積立期間は1年間です。

★特典 2 バーゲン品やボーナス払いでも100円ごとに3ポイントを進呈。

★特典 3 国内外のJCB、VISA、Masterの加盟店でもご利用いただけます。
JCB、VISA、Masterの年会費も無料になります。
またご利用額200円ごとに1ポイントを進呈。
このほか、特別ご優待企画、便利なキャッシングサービスなど、
おトクな特典がいろいろです。

※ポイントの積立期間は、入会月を基準に1年間です。翌期へのポイントの繰り越しはできません。
詳しくは、高島屋各店のクレジットコーナーまたは「入会のご案内」をご覧ください。



Takashimaya YOKOHAMA
横浜駅西口/TEL(045)311-5111

口紅を変えた。かなりいい、と思う。



毎日にフィット。

YOKOHAMA

PORTA

ホームページアドレス <http://gnavi.joy.or.jp/porta/>

たくさんの“感動”を運びました。
日通の美術品輸送は内外文化交流の一役を担っています。

IT IS OUR BUSINESS TO CARRY “INSPIRATION”
The Transporting of Works of Art by Nippon Express Plays
a Major Role in Domestic and Foreign Cultural Exchange

主要取扱実績

Major Exhibitions Handled by Nippon Express

ミロのヴィナス展・VENUS DE MILO
ツタンカーメン展・TUTANKHAMEN
レンブラント名作展・EXH. OF REMBRANDT MASTERPIECES
大阪万国博美術展・EXPO'70 ART EXH.

ゴヤ展・GOYA EXH.

モナ・リザ展・MONA LISA EXH.

東大寺展・EXH. OF TODAIJI TEMPLE

江戸大美術展・THE GREAT JAPAN EXH.

将軍の時代展・THE SHOGUN AGE EXH.

インド古代彫刻展・ANCIENT SCULPTURES OF INDIA

比叡山と天台の美術展・THE ART OF TENDAIJI BUDDHISM

ロダン展・AUGUSTE RODIN EXH.

黄河文明展・EXH. OF CIVILIZATION OF THE YELLOW RIVER

薬師寺展・EXH. OF YAKUSHIJI TEMPLE

日タイ修好100周年展・EXH. OF ART TREASURES OF THAILAND

世界現代ガラス展・WORLD GLASS NOW EXH.

神々のかたち—仮面と神像・THE SHAPES OF GODS—MASKS & IMAGES OF GODS

シーボルトと日本・VON SIEBOLD AND JAPAN

大エジプト展・THE EXH. OF ART TREASURES OF ANCIENT EGYPT

17世紀オランダ絵画展・HOLLANDISCHE UND FLAMISCHE MALEREI UND GRAFIK DES 17. TH

柿右衛門展・KAKIEMON STYLE WARE EXH.

スミソニアン・アメリカの大発明展・SMITHSONIAN INSTITUTION NATIONAL MUSEUM OF AMERICAN HISTORY

鎌倉彫刻展・UK FESTIVAL (KAMAKURA SCULPTURE EXH.)

ミレー展・MILLET EXH.

大英博物館展・THE BRITISH MUSEUM EXH.

中国兵馬俑展・CHINESE TERRA COTTA SOLDIERS AND HORSES EXH.

トルコ宮殿秘蔵展・THE SPLENDOUR OF TURKISH CIVILIZATION : OTTOMAN TREASURES OF THE TOPKAPI PALACE

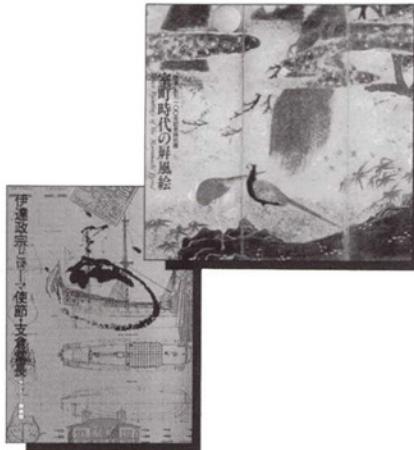
日本国宝展・NATIONAL TREASURES OF JAPAN

ローマの支倉常長展・HASEKURA TSUNENAGA EXH. IN ROME

ユーロパリア展・EUROPALIA EXH.

ヴァチカン展・MASTERPIECES FROM THE VATICAN-JAPAN

三井寺秘宝展・ART TREASURES OF MII-DERA TEMPLE



「信頼と技術」で
美を包む。

取扱業務

美術品、骨とう品、宝石、高価品、民芸品、標本、模型、精密器械
および企業展、物産展、その他催事全般。

- これらの内外の海 陸・空輸送に関するいっさいの作業
- 保 管
- 運送保険、積荷保険……輸送と展示の全期間を通じて一括付保する一貫保険も取扱っております。



日本通運 横浜北支店 ☎045-521-2222

プロのために、プロの品揃えです。



画材／書道用品／製図・デザイン用品コーナー

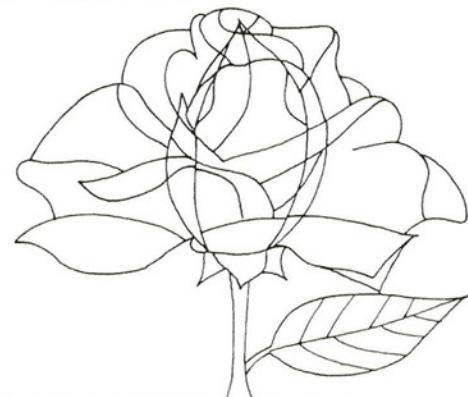
- 本店〈文具館〉4F・5F・横浜・セザキ町 TEL.(045)261-1231 ■藤沢店 藤沢駅南口名店ビル 2F TEL.(0466)26-1411
■横浜駅東口ルミネ店 ルミネ5F TEL.(045)453-0811 ■厚木店 小田急線・本厚木駅前 TEL.(0462)23-4111
※ルミネ店・藤沢店は書道用品・日本画材のみ取り扱っております。

有隣堂ギャラリー イセザキ町・本店書籍館B1

《個展・グループ展》申込承り中 ※お申し込み・お問い合わせ…有隣堂宣伝室ギャラリー係 ☎(045)825-5507

財団法人

神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会費)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といった志向の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

■■■■■ 事務局(申込先)〒231-8588 横浜市中区日本大通1 県庁文化室内 ☎045-201-1111 内線3428 ■■■■■

時代の「じ」を奏でます。

私たちは

さまざまな表現を駆使して

情報に命を吹き込む

コミュニケーションの

トータルクリエーター

デジタルデータから

ページに Web に

また CD-ROM 作成など

情報をフルサポートします



- ハイレベルグの新鋭機QM-DIの導入で、お客様が制作したDTPデータからダイレクトに少部数のカラー印刷物が速くしかも安く作成できます。
- データベースの構築、顧客管理＆名簿作成など、コンピュータを駆使してつくるものならどんなものでも、コンピュータに強い当社におまかせください。
- 効果的なDM展開が可能なシークレットメール。リーフレットを折りたたんだ封筒兼用タイプ、1枚で2枚分の情報を盛り込めるハガキタイプ等、経費節減に役立ちます。
- ポスター、カタログ、チラシ、パンフレット、リーフレット、マニュアル、営業案内、会社案内、定期刊行物、PR誌、カレンダー、テレホンカード、包装紙、ショッピングバッグ（紙orボリ）、図録、写真集、自分史、社史、記念誌、その他、印刷に関わるものなら何でも、お気軽にご相談ください。

かながわ中小企業モデル工場
通産大臣賞 中小企業庁長官賞等多数受賞

野毛印刷

営業企画本部／横浜市南区新川町1-2 〒232-0027 ☎(045)252-2511
福浦工場／横浜市金沢区福浦2-4-11 〒236-0004 ☎(045)780-5181
東京営業所／東京都港区新橋5-34-7 〒106-0004 ☎(03)5401-1231

営業企画本部 ☎(045)252-2511
ホームページURL <http://www.noge.co.jp>

印刷ショップ 株式会社アトラス
中区生田町5丁目 ☎(045)641-4132

企画・デザイン 株式会社エイ・シー・ピー
中区弁天通4丁目 ☎(045)201-8263

第34回神奈川県美術展 関係者名簿

顧問

小倉 遊亀
近藤 弘明
國領 経郎
斎藤 義重
井上 信道
圓鍔 勝三
蓮田脩吾郎
殿村 藍田
比田井南谷
菅原 寿雄
弦田平八郎
中原 佑介
吉田 耕三

神奈川県美術展委員会

委員長 上野 豊
委員 神戸 由雄
井上 玲子
酒井 忠康
勝呂 忠
針生 一郎
平松 礼二
渡辺 豊重
白石 和巳
竹田 悅堂
土田ヒロミ
永井鐵太郎
浜口タカシ
柳生不二雄
吉田 蘭處
伊佐 浩一
蔵 隆司

審査員

平面立体

伊藤 彬
今井由緒子
榎木 野衣
田中 稔之
針生 一郎
藤嶋 俊會
山梨 俊夫

工芸

佐野登志子
白石 和巳
永井鐵太郎
中村 錦平
野口 晴朗
福田 繁雄
松原 利男

書

岩澤 蕙堂
川瀬 魚石
重田 翠村
島津 碧嵒
高木 幸子
殿村 藍田
吉田 蘭處

写真

飯沢耕太郎
岩崎 隆久
江成 常夫
岡井 耀毅
土田ヒロミ
西村 建子
浜口タカシ

実行委員

書
飯田美砂子
川口 流坡
久保田昭子
茶木 静谷
船本 芳雲
矢島 撫周

第34回神奈川県美術展

発行 ●財團法人神奈川芸術文化財団 ©1998

神奈川県民ホールギャラリー

〒231-0023 横浜市中区山下町3-1

TEL.045-662-5901

撮影・株式会社菊屋写真工房 ● 大橋一彦

表紙・本文デザイン・制作 ● 株式会社 野毛印刷社

発行 ● 1998年9月8日

